

8月16日から18日まで綾川町ふれあい運動公園(香川県)で開催された「第55回全日本中学生ホッケー選手権大会」。近畿地区代表として出場したホッケークラブHC HYOGO HEARTS(以下、ハーツ)が、日本一の栄冠に輝きました。「のじぎく兵庫国体」で、ホッケー競技の開催地になったことを契機に、同クラブの前身、篠山ジュニアホッケークラブが発足した2000年から25年を経て、念願の頂点に立ちました。市内を拠点に活動するハーツは2017年に発足。現在は園児から社会人まで約150人が在籍し、中学生男子は地元を中心に市内外から集まった30人が所属しています。

全員ホッケーで近畿の頂点へ
 中学男子チームは、8月5日、6日に滋賀県で開催された「近畿中学校総合体育大会」に出場しました。予選リーグを大量得点で勝ち上がったハーツは、決勝トーナメントでも山本新太(丹南中)を中心に攻守にわたり躍動しました。ライバルの伊吹山中(滋賀県)との決勝戦も序盤から得点を積み重ね、相手をも圧倒。2連覇を達成し、全国大会への出場権を獲得しました。

県勢初の快挙！新たな歴史刻む
 「第55回全日本中学生ホッケー選手権大会」には24チームが参加。予選リーグを順当に勝ち進んだハーツは、決勝トーナメントに入っても終始エンジン全開。圧倒的な攻撃力で勝ち上がり、決勝に駒を進めました。

決勝の相手は昨年度の準優勝校・東原中(栃木県)。試合開始から一進一退の攻防が続く中、前半3分に先制に成功。同7分にも追加点をあげ、2対0で前半を折り返しました。後半は一度同点に追いつかれるもすぐに点を取り返し、6対4で勝利。初優勝を成し遂げました。大会後には優秀選手が発表され、山本主将が最優秀選手(MVP)、太野垣響己選手と福本陽向選手が優秀選手に選出されました。

指導する岡花宏明監督は、「25年を振り返り、感動や喜び、感謝の気持ちが入り込んでいます。出場登録外の中学生の活躍なくして優勝はありません。試合分析、ミーティング、熱中症対策、食事や用具の準備など、チームが最大の力を発揮するためにベストを尽くしてくれました。全員で喜びを分かち合うことにつながっていますし、主体的で豊かな経験は将来にも生かされると思います」と、その活躍を讃えました。



大会結果

近畿中学校総合体育大会ホッケー競技の部

《予選リーグ》

- 1 試合目 〇7-1 郡山西中(奈良)
- 2 試合目 〇8-0 PROGRESS(滋賀)

《決勝トーナメント》

- 1 回戦 〇12-0 瑞穂・蒲生野中(京都)
- 準決勝 〇6-0 吉備中(和歌山)
- 決勝 〇5-0 伊吹山中(滋賀)

全日本中学生ホッケー選手権大会

《予選リーグ》

- 1 試合目 〇6-0 SHC(静岡)
- 2 試合目 〇5-3 HiroshimaBuenaVistaHC(広島)

《決勝トーナメント》

- 1 回戦 〇7-0 吉備中(和歌山)
- 準々決勝 〇9-0 かがみはらホッケークラブ(岐阜)
- 準決勝 〇3-0 岩手U-15ホッケークラブ(岩手)
- 決勝 〇6-4 東原中(栃木)

- ①ボールを運ぶ山本新太主将。攻守にわたりチームを統率しました
- ②ゴールを狙う内田修平選手。中盤の要として活躍しました
- ③ドリブル突破する福本陽向選手。攻撃の要として、チーム総得点の半数を記録しました
- ④ゴールを守るハーツの選手。ゴールキーパー今井優選手を中心に堅守が光りました。
- ⑤守備の要、太野垣響己選手。ボール奪取から攻撃の起点となりました。
- ⑥巧みなボールさばきでゴールを量産した岸田瑛大選手。
- ⑦優勝決定の瞬間。チーム全員で喜びを分かち合うハーツの選手たち

夏に挑む -2025-

INTERVIEW

昨年の大会は3位と悔しい思いをしましたが、今大会では絶対に優勝するつもりで臨み、勝ち切ることができ、とてもうれしいです。チームが一丸となって勝ち取った優勝だと思います。



この夏、全国を舞台に市内の高校生、中学生、小学生たちが熱い戦いを繰り広げました。ここでは、選手たちの夏の挑戦に迫ります。

日本一の快挙達成！ 発足25年夢つかむ

HC HYOGO HEARTS 中学男子チーム



- 3列目左から 酒井大翔(丹南中2年)、柿原壮真(丹南中3年)、山尾進之祐(丹南中2年)、畑達宏(篠山中3年)、佐田菜太郎(丹南中3年)、今井優(篠山中3年)
- 2列目左から 弘田湊(丹南中2年)、中西春飛(丹南中2年)、小林悠太(篠山中3年)、木澤快輝(丹南中3年)、中野丈一郎(篠山中2年)、酒井涼守(丹南中3年)、太野垣響己(篠山東中3年)、今和泉蒼良(丹南中3年)、古杉環己(丹南中2年)
- 1列目左から 河口蒼生(丹南中2年)、岸田瑛大(丹南中2年)、山本新太(篠山東中3年)、福本陽向(篠山中3年)、波多野将真(丹南中3年)、野下奏真(北神戸中3年)、内田修平(篠山中2年)、中野奏琉(篠山中3年) 【敬称略】

まちの話題

特集

タウンレポート

HO-TOKU

情報ピックアップ

市政リーダー

インフォメーション

おでかけ相談

はぐくみ

街かどレポート

まちの話題



消防本部 松葉さん、全国大会に出場（8月30日）

市消防本部職員の松葉優作さんが、全国消防救助技術大会 水上の部に出場し、3位のタイムで入賞を果たしました。全国消防救助技術大会での入賞は、市消防本部初の快挙です。7種目ある水上の部の中でも「基本泳法」で出場した松葉さん。中学・高校時代には水泳で全国大会へ出場した経験があり、今までの経験を生かせると思い基本泳法を選んだそう。松葉さんは、「自分の泳力を生かして市に貢献したい」と話しました。



ホッケー小学生チームも全国大会へ（9月1日）



第48回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会に出場するHC HYOGO HEARTSの小学生チームに「丹波篠山ふるさとPR奨励金」が贈呈されました。男子チームキャプテンの白景咲さんは、「去年は予選敗退でしたが、今年は優勝をめざします」と意気込みを話しました。
※9月9日時点の内容を掲載しています。

環境セミナー（8月31日）



四季の森生涯学習センターで環境セミナーが開催されました。関西の朝の顔としておなじみの気象予報士、正木明さんを講師として招き、気候危機や生物多様性などについてお話いただきました。壇上で天気予報を再現された場面では、会場から拍手が起きました。

新しいあいさつ運動推進横断幕（9月4日）



丹南中学校正門横に掲出しているあいさつ運動推進横断幕が新しくなりました。掲出していた横断幕が劣化していたため、丹南中学校生徒会が横断幕の作製を要望。味間地区まちづくり協議会、丹南中学校PTA、篠山あいさつの会タンポポが合同で作製しました。

せや！フリマイこっ!!（9月7日）



丹波篠山市民センターで開催されたフリーマーケット。丹波篠山市民プラザ登録団体と篠山産業高等学校が出店し、当日は開始時間から多くの人でにぎわいました。飲食や物販などブースは多岐にわたり、子どもから大人まで楽しめるフリーマーケットとなりました。

ミュージカルダンススクール「スタジオOZ」に通う川俣依桜里さんと川口珠俐夢さんのペア「桜珠」が、7月31日に東京で開催された「SOULM8（ソウルメイト）大会U-12チーム部門」に出場し、3位入賞を果たしました。小学1年のときから「スタジオOZ」に通う川俣さんと川口さん。今年1月からチームを結成し、練習に取り組んできました。初挑戦での入賞に2人は「とてもびっくりしました。練習してきたことが結果につながりとてもうれしいです」とにっこり。スクールの辻井奈緒子代表は「2人は練習好きで努力家。そのがんばりがようやく花開きました」とその喜びを話されました。



川俣依桜里さん（味間小6年）
川口珠俐夢さん（岡野小6年）（左）

ダンスコンテストで 全国大会に出場

丸山響生さん （篠山鳳鳴高校2年）

全日本武術太極拳選手権大会 棍術部門で優勝



7月11日から13日まで東京都で開催された「全日本武術太極拳選手権大会」。棍術、刀術、長拳部門に挑まれ、棍術では1位（27人中）、刀術は2位（42人中）と輝かしい成績を収め、長拳も5位に入賞されました。「4月の全国大会ではミスを恐れ、守りに入ってしまった。今大会ではミスを恐れず、ダイナミックな動きができたことが好結果につながりました」とその喜びを話します。高校ではバレーボール部に所属し、部活動との両立をはかっている丸山さん。「来年4月のJOCジュニアオリンピックカップに優勝し、その先にある国際大会選考会への出場権を獲得できれば」と熱い思いを話されました。

夏に挑む -2025-

福知山成美高校女子ソフトボール部に所属する藤井あかりさん（3年/ピッチャー）と増井くれはさん（3年/サード）が、京都府選抜チームに選ばれ、8月15日（金）から17日（日）まで奈良県で行われた国体予選（近畿大会）に出場しました。京都府チームは、1回戦、2回戦を順調に勝ち進み、決勝で兵庫県に0対2で敗れるも、敗者復活戦で大阪府を破り、本大会への出場を決めました。藤井さんは1回戦と決勝戦で途中登板し、増井さんは代打や代走の切り札として起用され、チームに貢献。2人は「チームが一丸となり国体への出場を決めることができ、とてもうれしいです」と笑顔で話しました。



増井くれはさん（篠山中出身）
藤井あかりさん（篠山中出身）（左）

ソフトボール少年女子 国体選手に選出

河口航生さん （丹南中出身）

日本ジュニアトライアスロン 選手権出場



スイム（水泳）、バイク（自転車）、ラン（長距離走）の3種目を連続してこなす過酷な競技「トライアスロン」。西脇工業高校の河口航生さんが、7月27日に岐阜県で開催された「第27回日本ジュニアトライアスロン選手権」に出場されました。丹南中時代にはホッケー選手として活躍し、全国大会にも出場。西脇工では陸上部に所属している河口さん。顧問教諭の勧めもあり、今年に入り本格的にトライアスロンのトレーニングを始められました。「トライアスロンは自分のよさを生かせる競技。練習を始めて長距離走の記録も伸びました。結果がついてきてとてもやりがいがあります」とその思いを話されました。